

# 大学生の行動範囲に移動手段や居住地が与える影響

國井愛真

本研究の目的は、大学生の行動範囲が移動手段や居住地によって変わるのか、関係しているのかを明らかにすることである。特に、自家用車利用率や鉄道利用環境に差のある都市部と地方部に着目し、大学生の行動実態を比較・分析することを課題とした。

本研究では、都市部として大東文化大学に通う学生、地方部として新潟県に居住する大学生を対象に、Google form を利用したアンケート調査を実施した。調査では、居住地、居住形態、保有している移動手段、通学先、買い物先、社交先、アルバイト先などを把握し、自宅から各行動先までの移動手段や移動時間を収集した。得られたデータをもとに、行動範囲や広さを移動手段別・居住地別に分析した。

分析の結果、地方部では自家用車を利用する学生の割合が高く、通学や買い物、社交、アルバイトといった行動先が自宅から比較的離れた場所に分布する傾向が確認された。一方、都市部では鉄道や徒歩、自転車を利用する学生が多く、行動範囲は地理的には比較的狭いものの、多様な行動先が集積した範囲内で生活が完結している傾向が見られた。また、居住地の違いや自家用車の有無によっても行動の自由度に差が生じていることが示唆された。

これらの結果から、大学生の行動範囲は個人の意識だけでなく、移動手段や居住地によって大きく左右されていることが明らかになった。本研究は、大学生の行動範囲を都市部と地方部の比較から実証的に捉えた点に意義があり、若者の生活実態を踏まえた交通政策や住環境整備を考えるうえで基礎的知見を提供するものである。